

## 2003年2月日本テレビ会長社長定例記者会見 〈要旨〉

### 1. 総務省の経営破綻時の「1局複数波」容認論についての評価

Q：総務省の「1局複数波」容認論についての評価は？

氏家齊一郎CEO会長：

デジタル時代になるとテレビ局は非常に採算が悪くなりますから、地方局がもたなくなるかもしれない。それをどう助けていくかということが問題提起の基本だったと思います。現実的な妥協案だと思います。

Q：BSの救済は？

氏家会長：デジタル化に伴う地方局の問題というのは、あと3～4年先に出てくるんですね。BS及びCSの問題は、待った無しに出てくる可能性がある。今のBS、CS、あるいは地方局をそのままの体制で救っていこうとするならば、ああいう考え方しかないかなという気はしています。

Q：評価としては？

氏家会長：地方局ないしBS、CSを助ける。経営を支えるという意味だけで言えば、役立つとは思います。

Q：実際には、どういう対応になるのか？

氏家会長：どういう形で企業統合なり、垂直接手なり、水平援助なりをやっていくかという問題だと思いますけれど、これは地域によって異なるのではないかと思います。

個人的な意見だが、例えば九州の場合は、福岡を中心にしてまとまっていけば一応できるのではないかと思います。それから東北も仙台あたりを中心にしてまとまっていけばできるのかなと思いますが、中国、四国地域は今の形で言うと、どこかに一か所にまとめてやる、という形にはいかないだろうという感じなんですね。あの辺をどういうふうにまとめていくかということで、別の形

が出てくるのかなという気はしていますけどね。これはあくまで個人の見解です。

## 2 . アナアナ変換の開始を受けた今後の地上デジタル放送PR展開について

Q : アナアナ変換の作業がいよいよ動き出したが、今後の地上デジタルのPR展開についてどう思われますか？

氏家会長：これは聞いてみると、実行している過程で、小さな問題点はずいぶん起こっているそうですね。しかし、トータルとしてはスムースに動いていくと思います。今後もNHKさんとも協力して、PR策とか告知というものを続けていかなければいけないと考えています。

## 3 . 4月改編の編成方針と目玉番組

Q : 4月改編の目玉になるような番組は？

萩原敏雄COO社長：

一番大きな点は、朝から夕方にかけてほとんど全部と言ってもいいぐらい生放送になります。今、4時半から「NNN24ニュース朝いち」というのをやっていますが、5時半から「ズームイン！！SUPER」の1部、6時半から「ズームイン！！SUPER」の2部。8時半から「ザ！情報ツウ」。10時半からは今、再放送枠になっているのですが、ここを「先取りニュース」（仮タイトル）で生活情報、「NNN24」の特集もの等々を中心としたF1、F2向けの生活情報番組というに切り替えます。その後が「NNNニュースダッシュ」「おもいッきりテレビ」「ザ・ワイド」になるわけですね。「ザ・ワイド」が終わるのが現在は3時50分です。ここからまた再放送番組を組んで「ニュースプラス1」の1部につながったのですが、ここも生放送。これも仮題ですが、「汐留スタイル」という、これまたいわゆる情報番組です。だから広報的なものもあるし、生活情報もあるしというような生放送にしていくと。ここから「ニュースプラス1」の1部につながって2部につながって19時まで行くということですから、間でミニ番組も多少あります。例えば「3分クッキング」とか、そういうのは入りますが、大きな枠組みとしては4時半から19時まで全部生放送ということになるというのが、大きなことです。

狙いとしては、今の視聴者のニーズに応えるには生の方がいいだろうということ、それから有事に一番機動力があることもあって、生放送にということがか

なり大きな変更です。

それからもう1つは、土曜日の今おっしゃった例の「電波少年」からつながって、「雲と波と少年と」をやっておりましたが、これは先週の土曜日でもう最終回でした。これは正直申し上げて低視聴率、理由はそれ以外ありません。したがってこれは打ち切りということで、「電波少年」の総集編等々につないで、期末編成までもっていくということになりますが、ここに4月以降は、これも仮題ですが、「エンタの神様」という、これは本当に大型のバラエティエンタテイメント番組をつくります。ズームインを卒業した福澤を起用して、福澤の番組ということで、バラエティ系ではこれが一番大きな改編になります。

あとはドラマ3枠以外は、4月の段階ではあまり変えるつもりはありません。それから夜遅い方はご承知のとおり、今年から巨人戦全部1時間延長ということにしてありますので、夜の遅い方はいじらないということで行くつもりです。

Q：ドラマが落ち込んでいますか？

萩原社長：深刻な事態です。量が多すぎるということがここへ来てはっきり出てきたと思いますね。いろいろと個人視聴率を調べてみると、大体F1がドラマの視聴率を主導してきたのがこの数年だったんですが、どうもここへ来てだいぶF1がドラマから離れているようです。やっぱりF2を狙わないとドラマはうまくいかないというようなことがあって、この辺の切り替えがなかなか各局とも難しい。ドラマに関してはかなり深刻だと受け止めています。ただ、うちだけ深刻だとこれはかなり問題なんですが、みんな苦労していますので、おかげさまでほかの番組で何とかリードをしている間に、何とかドラマの体制を立て直さなければいけないかなということで、そういう意味で言えば、ちょっとこの4月あたりはいろんな意味でのトライアルになってくると思います。

Q：制作費が掛かることになるが？

萩原社長：例えば「NNN24」というのは24時間ニュースでずっとやっているわけですね。その辺をうまく取り入れながらやっていきます。再放送だとただだと皆さん思いがちですけれど、権利クリアで結構お金かかるんですね。だからそのことを考えればそれほどの大きな出血ということはありません。

Q：午前中、そういうニュース番組ということは、やはりMLBの結果などもそこで報じられるわけですか。

萩原社長：それはそうですね。もうちょっと早いんじゃないですか。ズームインの中でやれるでしょう。ヤンkeesならですよ。

#### 4. 今期G戦中継の盛り上げとヤンkees松井関連放送について

Q：ヤンkeesの松井関連放送は？

萩原社長：1つは、非常に今松井の話題が沸騰しております、スポーツ紙もテレビのニュースもほとんど松井、松井でいって、ジャイアンツ何しているのかという感じがするので、実を言うとそれが本当は一番心配なんですよ。

松井の話題がいわゆる視聴者のニーズに応える必要があるということで、それは無視する気は毛頭ありませんけれども、日本テレビの主要コンテンツはG戦であることを再確認して松井をおろそかにせず、G戦を大事にしようと思っています。

昨日のオープン戦は11.6%と過去3年で最高でした。M2とそれからF3が取れています。殊にM2が上がっているというのは非常に頼もしいですね。ここが取れると巨人戦の数字は、つまりM3、F3はどっちみち取れるんですよ。だからあとはM2が噛んできてくれるかどうかというのがかなり大きいので、少なくとも1試合だけですけれども、昨日に関して聞いて言うとこれが取れているというのは、非常にいい兆候かなという気はしています。

今年の巨人戦については、やはりM2とかF2とか、若い世代をまず獲得していこうということがありまして、同じ選手の紹介をするのでも、今までではどっちかというと、左投手には何割だとか、記録に関する紹介が多くなったんですけども、今年はどっちかというと選手のキャラクター、プロフィールみたいなものを紹介していこうかなと考えてます。

また「ピッチトラックス」という、ピッチャーの球筋をコンピュータグラフィックで、今までよりもはっきりわかるようにする新しいCGを活用します。

あと解説者に例の石井浩郎さんに入ってもらい、好評だった「携帯クイズ」を今年もやります。

そういうことで、とにかく巨人戦をしっかり支えていこうということですね。松井に関しては、さっきから言っているとおり情報としては大事にしなければいけないと思うんです。そういう意味で言うと、例えば「ズームイン！！SUPER」とか「ザ！情報ツウ」とか、あるいは新しくできる生番組の中で可能な限り松井情報を伝えるのは、これは当然のことだと思いますけれども、できれば松井情報と並行して巨人情報を必ず入れていくというようなことをやっていきたいなということです。

それから巨人戦の中継の中でも、特別に松井コーナーなんていうのはつくりませんけれども、今日松井はどうだったというようなことは紹介していくのは、これは周辺ニーズに応えるという意味で言えば当然だと思いますけれども。

Q：氏家さん、いかがですか。今年の巨人は。

氏家会長：昨日のオープン戦を心配していたが、数字がよかつたので、安心した。

## **5 . 個人情報保護法案（新法案）の評価**

Q：新しい個人情報保護法案についてどう評価しますか。

氏家会長：今回は言論機関が規制の対象の外にあり、言論統制ということからは遠のいてきた。今後の議論のなかで悪い方へ展開したら、ただちに幅広い批判勢力を結集して闘っていく。個人情報保護法案そのものは必要なものであるが、これは言論の自由を守らせるというのが絶対条件である。

Q：集中排除について補足質問です。ローカル局が経営破綻した場合にキー局による子会社化というケースが出てこないとも限らないと思いますが、日本テレビではそういう可能性はありますか。

氏家会長：ネットワークは何十年かけて作ってきたもの。これは徹底的に守つていかなければいけない。ただ、どんな理由で破綻したのか、正確に分析して対処すべきと思います。うちのネットワークの中にはそういうものはないと確信していますけれど、野放図もない今までの経営のやり方をやっていて、つぶれてしまった時にキー局が直ちに助けるのが正しいのか、会社更正法で対応し、その会社の経営責任をきちんとした上でやるのが正しいのか。これは大いに社会的にも考える必要あるでしょう。

Q：先ほど九州と東北の例えを出されていましたが、日本テレビの系列という関係でそういうことはありますか。

氏家会長：これは民放連の会長でも何でもない、個人的な考えです。これはブロック化構想で経営効率を高めるためにはいいということだが、地域によってローカルな事情がある。そういう意味でブロック化で効率を上げるのは、九州と

東北ぐらいかなと思っている。

Q：「放送倫理・放送番組向上協議会」新設について、その後の反響はどうですか。

氏家会長：これは政党問わず評価できるということでした。その際の注文としては、第三者制を担保できるように、できるだけ強力にすべきだということでした。我々としては放送経験者からの委員を排除して、第三者制を担保しようという形にしてある。

あとは第三者から厳しい話が出たときにそれを局側がどう受けるかということですが、今までもBR0のとき、これは改善しますと、きちんとそれは告知をするようにして、直してきました。この辺は十分に対応していくのではないかと思います。

ただ、今問題になるのは、消費者金融のCM問題です。これをどうするか、ここ半年ぐらいの大きな問題になります。青少年対策委員会で提起された、このCM問題は新しい組織に引き継がれるわけです。そちらの方にいろいろ報告しなければいけないと思います。その組織のスタートは7月、あと3か月ありますかなので、その間に動きが出た場合には、青少年対策委員会には今のままで報告していかないとまずいと思います。

Q：消費者金融CMについて、民放連としては近々対応を決めるということですか。

氏家会長：今、表現内容の問題とそれから時間規制の問題が提起されています。それが提起されたのが1月末でした。4月改編をやるときのフォーマットは、もう既に決まっているわけです。それまでの例えば17時 - 21時はやめますということを言ってしまうと、現場の編成上のフォーマットがめちゃくちゃになってしまう。そこでとりあえず消費者金融の業界団体、代理店の協会と三者でいろいろ話し合ってやろうということが第1点です。それからとにかく表現の問題について、表現の問題というのは、金利がどれくらいとか、あまり借りない方がいいですよとか、計画的に借りなさいとか、そういう表現をもっとはっきり分かるようにというような考え方です。、それは4月からでもできるということです。

時間帯の問題については、10月の改編に間に合うように、4月以降に今申し上げた三者で話し合って、その上で青少年に対する委員会その他にご報告いたしましょう。

とにかく4月以降は変えられる部分を変えて、それから10月以降に抜本的なことをやろうということです。それは消費者金融自身もいわゆる法的には認められた団体であって、いわゆるヤミ金融とがごちゃごちゃになっているところがあって、大手6社に銀行系3社は、雑多なヤミ金融と一緒にされてしまうと、確かにそうなんで、法的には当然成立するわけです。しかし、これがまた社会的に問題があるという考え方が出ているわけだから、両社の考え方のどういうところで折り合いをつけるかということをきちんと民放連を中心になって決めていかなくてはいけないというのが、今の動きです。

Q：朝日新聞襲撃事件というのが1987年にありますて、最後に残っている静岡支局爆発事件というのが今年の3月11日に、時効になってしまう情勢です。この件についてご見解伺いたいのですが。

氏家会長：これは言論に対する重大な挑戦ですから、最も卑劣な挑戦です。あのときから我々は一貫してこういうものを絶対に許すべきでないと思ってやっておりまして、マスコミ全体がそういう考え方だったと思います。だから警察その他も、私は今でも本気になってやったのではないかと思っています。ただ、この事件を風化させないためにも、確かに時効ではあるけれども、時効後にも何らかの形で公的機関も、新聞協会としてもウォッチングするシステムを設けておくべきではないかなと思っています。

以上